



ねぎし

横浜市立根岸小学校
学校だより
7月号 家庭数
令和5年6月30日

ホームページ



「挨拶」と「学力」

校長 杉山 真理子

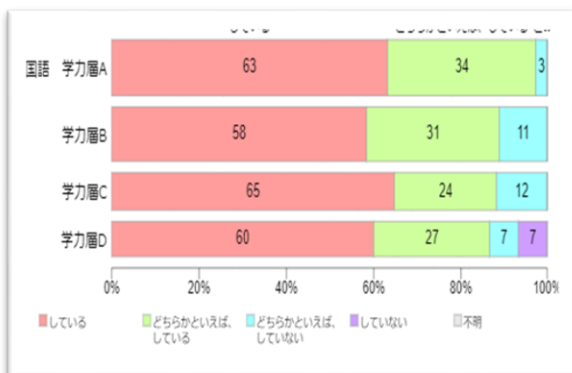
「おはようございます」

朝、正門や東門に立っていると、子ども達の明るい挨拶が返ってきます。よく見ると挨拶の様子は様々で、元気な声で挨拶する子、にこっと笑顔になる子、帽子をとり深々と頭を下げる子、足元を見ながらの子など、一人一人違います。

本校では『挨拶』を大切にしようと、5.6年生のふれあい委員会を中心に全校児童、全教職員で取り組んでいます。ふれあい委員会では、毎日各門に立ち、よい挨拶を意識してもらおうと呼びかけています。また、気持ち良い挨拶をするために校長室の前に掲示もしています。学校では700名近くの方が生活していますが、中には挨拶が得意な人もいれば苦手な人もいます。大事なことは、「いつでもどこでも無理矢理大きな声で挨拶する」ということではなく、「挨拶の意味や良さを知ったうえで、自然にできる挨拶」をめざすことだと思います。



挨拶には多くの力が宿っています。例えば、「感謝を伝えることができる」「相手を大切にしている気持ちが伝わる」「仲良くなるきっかけになる」「印象の良さが伝わる」「緊張をほぐせる」など。自分が発した何気ない挨拶でも、時には相手を勇気づける一言になることもあります。現に朝の子ども達との挨拶は、私のエネルギー源です。



本校の学力状況調査の結果で、興味深いデータがありました。「挨拶をよくする」と答えた子どもの学力との関係です（図は国語の学力層）。挨拶ができるから学力が高いのか、学力が高いから挨拶ができるのかは分かりません。ただ、相手に関心をもつ子は多様な考えを大切にしようとするでしょうし、挨拶を心がけようと取り組む子は学習にも粘り強く取り組むのではないのでしょうか。また、挨拶のよさや意味を知って使おうとする子は

自分の発した言葉に責任をもつようになり、進んで学ぶ素地が育つのだと思います。先日、根岸中学校で小中学校運営協議会が開催されました。卒業生が頑張っている様子が授業を通して感じられ、嬉しく思いました。なかでも、根岸中の生徒の挨拶は素晴らしかったです。とても感じよく、対話しているような挨拶で、交わっていて心地よい気持ちになりました。9年間の取組として引き続き努めていきます。

よく使うあいさつの語源

- * おはようございます…「お早いですね」 * こんにちは…「今日(こんにち)はご機嫌いかがですか」
- * さようなら…「左様ならば、ご機嫌よろしゅう」(別れ際の会話)
- * ごめんなさい…「免じてください」
- * ありがとう…「有り難い」(有るのが難しい、当たり前ではないことをしてもらった、の意味)